

発掘市」。これなんかびったりじゃないですか。

渡辺 そんなのがあるんですね。調べてみます。

島本 今販売やPRについての話ができましたが、ほかからも質問があります。松田さんの会社は、新聞やTVなどのメディアによく取り上げられていますよね。このへんのノウハウ的なものを教えていただければ。

松田 中小企業はお金をかけた宣伝はできませんよね。そこで6、7年前に大阪商工会議所で「プレスリリースの書き方」を受講したんです。つねに情報を待っているマスコミに、「どうすれば商品を魅力的に伝えられるか」ということを勉強しました。その後は商品ができたら大量にリリースを送ることを続けてきたおかげで、マスコミの人脈ができました。今では新商品発売のタイミングでリリースを送付すると、ありがたいことにどこかを取り上げてくれるようになりました。

島本 やはり、ニュースリリースが大切なんですね。

松田 ただテレビは瞬間的なもので。放送されたあと2、3日はアクセスが集中するのですが、その後ピタッと止まってしまいます。これを変えるために、現在は自社サイトが中心ですが、大手オンラインショップでの販売にも力を入れていこうと考えているところです。



スーパーなどで袋の口を開けるとき、あのストレスが解消。「Liquid Jet」ならワンタッチで衛生的に手を濡らせ素早く開けられる。
●株式会社渡辺製作所

松田 だから渡辺さんの製品は時流に合っているんです。うちの場合、今回のコロナ対策の商品は、本当にいろんな方面から反響がありました。これまで個人向けの商品が多かったのですが、それに対して企業からの問い合わせが多く、販売単位も違うので驚いています。ですので、今後は企業向けの困りごとに対する商品開発もしていきたいですね。それと人が困っていることに対して素早く対応すると、ちゃんと売れることが実証されて自信もつきました。今後は環境衛生を意識しつつ、ダンボールが「エコな素材」であることを活かした商品づくりをしていきたい。

島本 今までの当たり前が当たり前でなくなって、今までの常識も通じなくなっている。だけど、それを大きなチャンスととらえたい。今、クリーンルームのレンタルサービスも考えていて。全国どこでも設置までする。これによって本業がうまくいなくても、クリーンルームを導入することでマスク製造など新しいことにチャレンジできます。そういう世の中が活性化するような、最初の足がかりのお手伝いができれば、すぐには利益につながらないかもしれませんが、将来を見据えた社会性のある動きかなと思っています。



「ほかにもものをつくる」ことを目指し、商品開発研修など地道な努力を続けてきたエーディーエフでは、コロナ禍でも社員からの自発的な企画提案で新しい商品が生まれた
●株式会社エーディーエフ

今までの常識を超えて 社会に役立つものづくりを。

渡辺 当社はリーマンショックで大きな打撃を受けました。そこから立ち上がってようやく盛り返した経験があります。ですから今回のコロナに対しても、生き延びる道を模索しなければなりません。今後は既存の仕事を今まで通りこなしながら、新製品を全国に広めていきたいと思っています。

島本 私たちの会社はコロナにかかわらず逆境だったので(笑)、言い換えればリーマンショックでも今回のコロナでも、大きく売上は減っていない代わりに、大きく飛躍しないという低空飛行を続けてしまっている。そこはなんとしても脱却したいですね。

松田 コロナ禍で私自身も人生観が変わりました。日々、家族や社員みんなが健康に生きていることの大切さを実感しています。その気持ちはたとえコロナが終息しても、前の状態には戻らないでしょう。それと現状を見てもインバウンドも厳しい状況で、特長のないものはもう売れない。何か光るものがないと商品売るのは厳しい。たとえばウィズコロナ／アフターコロナ時代には、衛生面を意識したものが求められます。

渡辺 そうですね。もともと日本人は潔癖症的なところがありました。コロナで人々の衛生面に関する意識は、大きく変わったと思います。

モビトーク | 編集後記

今回の巻頭特集 MOBITALK (モビトーク) はコロナ禍の中で、密を避けるためリモートで実施しました。MOOV,press としても、初めての試みでしたが、皆さんリモートトークに慣れておられて、特に後半メディアへの売り込み話の場面では、リアル対談以上に活発に情報が飛び交い、たいへん盛り上がっていたのが印象的でした。



TODAY'S MEMBERS



被災者への支援がきっかけに
提案力のあるものづくりにこだわる。

1958年創立以来、「社会や人に役立つ企業であり続ける」という基本理念のもと、ダンボールケースや美粧ケースの製造販売を手がける。ワンストップで顧客のニーズに応えるべく軟包装・紙器・美粧段ボール・重包装・販促POPから自社トラックの配送までタイムリーに対応。東日本大震災発生時に避難所で、プライバシーを守るための間仕切り用のダンボールを製造して届けたことをきっかけに、避難所で使用するダンボール製のベッドや授乳室、簡易トイレなどの数多くの製品を開発している。

マツダ紙工業株式会社

大阪府東大阪市衣摺5-14-24
TEL 06-6728-8501
<https://matsuda-siko.com/>

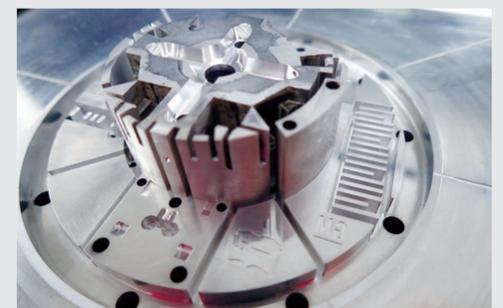


モットーは「他社と同じものをつくらない」。
独創性を大切に挑戦することで進化する。

自社オリジナルのアルミフレームを用いたオーダーメイドに特化し、1台からのものづくりに向き合う。名神高速道路に置かれているA型看板から機械カバーや物流ボックス、クリーンルームまで、さまざまな製品のオーダーに対応。また専門の営業職を置かず技術を持った社員ひとりひとりが、提案営業ができるセールスエンジニア型スタイルを目指しているのも特徴。顧客の困りごとをヒアリングしたうえで、オリジナルのアイデアを載せる。そんな独創性に富んだものづくりに定評がある。

株式会社エーディーエフ

大阪府大阪市西淀川区福町1-1-22
TEL 06-6474-9995
<https://adf-al.com/>



試作で培われた優れた技術力を
オリジナル製品で世に問う。

1975年に創立された渡辺製作所は、マシニングセンタ・NC加工機・成形機・光造形機などの設備も備え、多様化する顧客の要望に対応する試作メーカーのパイオニア。電化製品やコピー機、ファックスといったプラスチック製品の試作や部品試作をオーダーメイドで行い、最近では金属や金型成形までその範囲を広げている。数々のデザインモデルやワーキングモデル、開発段階での部品や治具などを単品や少ロットでも短納期加工できる技術力を活かし、初の自社製品「Liquid Jet」を開発した。

株式会社渡辺製作所

大阪府豊中市名神口3-7-6
TEL 06-6332-9881
<https://www.watanabe-mfg.co.jp/>

